

社会科

昨年度の取り組みと成果と課題

【 成果 】

- ・ICT 機器の活用と既習事項の定着を図る活動を取り入れたことで、主体的に学習に取り組む態度が身に付いている。

【 課題 】

- ・複数の資料や文章を読み取ることに課題がある。資料の読み方の指導に重点を置くとともに、文章を読み取る力を、国語科を中心として他教科でも指導していく必要がある。
- ・記述式問題の正答率を高めていくことに課題がある。読み取ったことを自分の言葉に直して表現する力を高める指導を行う。

大田区学習効果測定の結果分析 達成率（経年比較）

	令和7年度結果	令和6年度結果	令和5年度結果
第4学年	▽	≡	
第5学年	△	▽	≡
第6学年	▽	≡	≡

学習状況の分析

○知識・技能

- ・4年生は目標値と同じ水準、6年生は、目標値をやや下回っている。5年生は全国正答率を上回っている。4年生では「安全を守る働き」、6年生では「国土の自然などの様子」「農業や水産業」「工業生産」「産業と情報の関わり」に関する問題の正答率が低く、前学年の既習事項の定着に課題があると考えられる。

○思考・判断・表現

- ・4年生は目標値を大きく上回っており、5年生は下回っている。6年生はやや上回っている。5年生では「暮らしを支える水」「先人の働き」、6年生では「世界の中の国土」「日本の水産業」「日本の食料生産」「情報を生かした産業」の正答率が低い。その中でも5年生は特に記述問題の点数が低かったり、資料の読み取り問題が低い傾向にあり、自分で考えたことを文章で表すことに課題が見られる。
- ・4年生は思考・判断・表現に関する問題の全てが目標値に近い、それを上回っている。5年生は「都道府県の様子」、6年生の「日本の農業」に関する問題の正答率が高く、目標値を上回っている。身近な問題に関しての正答率が高いことが窺える。

○主体的に取り組む態度

- ・4年生と5年生は目標値をやや上回っており、6年生は全体的に下回っている。学習内容が地域から区、都へ広がっても、主体的に学習に取り組める授業づくりが必要である。

授業改善のポイント（観点別）

【 中学年 】

○知識・技能

- ・地域の消防団について調べ、実際に見学をさせてもらったり、話を聞かせてもらったりする活動を行うことで、消防団の役割について理解を深める。

○思考・判断・表現

- ・体験的な活動のねらいを明確にし、調べたことを図や表に整理し、分かったことや考えたことをまとめる活動を行う等、表現活動を充実させる。
- ・体験後の振り返りの学習では、メモや資料を基に、新聞、パンフレットなどにまとめる表現活動を取り入れる。

○主体的に取り組む態度

- ・スーパーマーケット、消防署、消防団、大田市場等の見学、昔の暮らし体験を通して、主体的に学習に取り組む姿勢を身に付けさせる。
- ・3年から断続的に地図帳を開く時間を設定し、基礎的な用語や地図記号、地名等に親しむ。

【 高学年 】

○知識・技能○知識・技能

- ・東京都の地理的環境の特色や、国土の位置など、自分の経験や知識、既習事項と関連させながら学習し、小テストやドリルパークなどで定着を図る。
- ・資料の特性を生かして、情報を集めたり、読み取ったりすることを授業内で確認し、社会的見方や考え方を生かして資料を読みとれるようにする。
- ・オクリンクやデジタル教科書を活用し、ポイントをしばって資料を読みとる活動を入れ、情報を自分でまとめることができるようにする。

○思考・判断・表現

- ・水産業や工業・食料生産など、生活と深く結びつけている単元は、自分たちの生活との関わりから、課題に気付けるようにする。
- ・児童の発問や感想から疑問から、次の学習につながる言葉を拾い、探究的に学習をすすめられるようにまとめ活動を取り入れるようにしていく。
- ・文章、写真、地図、年表など様々な資料に触れる時間を設けて、考えたことを記述・交流させることで、表現力を高める。

○主体的に取り組む態度

- ・日々のニュースや社会的な出来事を紹介し、社会的な事象への関心や課題解決をしようとする意欲を高め、生活に生かそうとする態度を育てる。
- ・児童の発問や感想、疑問から次の学習につながる言葉を拾い、探究的に学習をすすめられるようにする。